

平成28年度スーパーグローバルハイスクール構想調書の概要

指定期間	ふりがな	そうかがくえん そうかこうとうがっこう				②所在都道府県	東京都
28～32	①学校名	学校法人創価学園 創価高等学校					
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	普通科 生徒数 1059名 同キャンパスに小学校・中学校を併設	
普通科	354	346	359		1059		
⑥研究開発構想名	言語技術を磨き、地球規模課題解決に取り組む能力育成プログラム						
⑦研究開発の概要	①日本語と英語を往還させ、言語技術に裏打ちされた論理的・批判的思考力の育成 ②全校生徒を対象に、探究型学習による地球規模課題の理解力の育成 ③選抜生徒を対象に、英語を中心とした高度な批判的思考力、協調的問題解決力を有したリーダーの育成						

⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	<p>(1) 目的・目標</p> <p>本校では、「生命尊厳の思想に基づき、地球規模課題の解決に貢献する能力を備えた人材」をグローバル人材と規定した。本構想では、この人材像をもとに、</p> <p>①文化的・社会的な差異を認めることのできる多面的・多角的な視点と寛容の精神 ②地球規模課題を身近な問題と捉えるための幅広い教養と理解力 ③多様な意見に耳を傾け、協働して問題解決にあたらうとする行動力 ④論理的思考力と批判的思考力に基づく建設的な対話力</p> <p>の4つの資質・能力を育成することを目的とした。</p> <p>この4つの資質・能力育成のため、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語運用能力の向上とそれに裏打ちされた英語4技能の習得 ・探究型学習やフィールドワーク(FW)を活用しての地球規模課題への深い知識と理解力の向上を目標に掲げた。
		<p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>校内調査によれば、本校生徒は英語をはじめとした外国語への興味関心は非常に高いが、コミュニケーションに必要な母語(日本語)による言語運用能力の向上が課題であることがわかった。またSGHアソシエイトの活動を通して、生徒たちに地球規模課題への強い興味関心を持たせることができたが、その理解が表層的な知識に終わってしまったことも課題としてあげられた。</p> <p>上記の課題を踏まえ、グローバル人材として必要なマインドとスキルを育成するために、以下のような仮説を立てた。</p> <p>仮説1) 言語技術、特に「母語の強化」に焦点を当てることで論理的・批判的思考力が育ち、建設的な対話を実行する力が醸成される。</p> <p>仮説2) 地球規模課題を協働的に学び、自らの考えを表現することで、幅広い教養と理解力が育成され、課題発見力・課題認知力・課題解決力が身につく。</p> <p>仮説3) 国内・海外のFWを通して、文化的・社会的な差異を実感し、多面的・多角的な視点が育成される。</p> <p>(3) 成果の普及</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 中間報告会(11月)と年度実践研究会(2月)の開催 <input type="checkbox"/> 研究成果を編纂し、冊子にして希望者に配布(年1回) <input type="checkbox"/> 英字新聞プロジェクトの成果作品を希望者に配布(年2回) <input type="checkbox"/> GLP映像作品を学校ホームページにて配信 <input type="checkbox"/> 取り組みの様子を学校ホームページに特設サイトを設置し随時発信 <input type="checkbox"/> GLP・GCPの取り組みを、SNSを活用して逐次発信 <input type="checkbox"/> SGH事業に取り組んでいる他の高校との情報交換と協同研究会の開催 <input type="checkbox"/> 学校近隣の小学校・中学校・高校・大学と連携してのワークショップ開催(随時)

(1) 課題研究内容 (2) 実施方法・検証評価

① 「言語技術」教育【1・2年生対象(2016年度より)】

日本語と英語による言語技術の往還トレーニングを通じ、論理的・批判的な思考力・分析力を育てるカリキュラムを、国語科と英語科の協働で開発する。1・2年次に年間1単位を「言語技術」の授業として実施する。はじめに日本語のトレーニングを基本とし、平易な英語で同じ領域の学習をしたあと、再度日本語で行う。2年次にはさらに高度な論理的思考力・表現力、批判的思考といった能力をディベートなどの手法の学習を通して育成する。生徒が自己評価したルーブリック、教員によるルーブリック、さらに提出課題の3項目をもとに評価する。また、論理性と批判的思考力の一つの成果として、英字新聞作成プロジェクトを行う。他者にインタビューをすることは言語技術の応用実践となる。

② 協調的探究学習グローバル・シチズンシップ・プロジェクト(GCP)【全校生徒対象】

国連が提示する地球規模課題(Global Challenges)を中心にテーマを設定し、協働的な学びの手法を取り入れることで、現代社会に対する幅広い教養と協調的問題解決力の育成を目指す全校対象のプログラムを研究開発する。

1年次は環境・貧困・国際会議(模擬国連)を、2年次は戦争・冷戦後の紛争・人権をテーマにする。3年次には、言語技術の集大成とGCPの総括として、「ファイナル・プロジェクト」を実施し、全員が課題研究を行う。研究成果は、英語と日本語でプレゼンを行い、これをルーブリックに基づいて評価する。また、「現代社会」と「コミュニケーション英語Ⅲ」の授業において、プレゼンスキルや情報収集能力を習得するための教科横断的プログラムも提供する。また、留学生と地球規模課題について協働でポスターセッションを行うイングリッシュ・キャンプを実施する。

③ グローバル・リーダーズ・プログラム(GLP)【選抜生徒対象(2・3年生の希望者から)】

選抜生徒に対して、国内外のフィールドワークを通して、より高度な論理的・批判的思考と協調的問題解決力を有したリーダーを育成するプログラムを研究開発する。

2016年度は「核廃絶」「環境・人権①(マイノリティー)」「人権②(国際人権問題)」「持続可能な開発・平和」の4つをテーマとし、より高度な問題解決能力を要求する実践研究を、英語を中心に使用して行う。Skypeを活用したオンライン英会話を実施し、英語のスピーキング力を高め、海外との意見交換、研究・調査のためのインタビューやディスカッションを行う。講義、文献調査、FW、インタビューなどを通して学び、課題解決の提言をまとめる。国内各地および海外にてFWを行う。そのまとめを、英語による映像制作およびプレゼンにより一般公開する。アンケートを実施し、生徒の変容をみることでプログラムの有用性を評価する。ここで開発されたプログラムの成果は、検証・評価の上、随時GCPをはじめ、学校全体の取り組みへと還元していく。フィールドワークは以下の通りである。

海外	アメリカ・モントレー	核廃絶問題の日・露・米の高校生による発表会	2名
	マレーシア	異文化共存理解のための大学研修	16名
	アメリカ・カリフォルニア	平和学・人権問題講義と博物館研修	16名
国内	沖縄・北海道・長崎	各テーマのインタビューと博物館での研修	8名
	広島県広島市	被爆体験インタビューと平和記念館での研修	12名
	岩手県葛巻町	環境問題対策モデル自治体の訪問と研修	12名
	首都圏	環境・平和・人権に関する博物館・資料館研修	70名

(3) 必要となる教育課程の特例等 ①～③ 全て該当せず

⑧-2
課題研究

(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価

- 1) インド・デリー、中国・上海をはじめとした、海外高校生との平和・文化の意見交換会
- 2) 国内のSGH校他、同様なテーマを研究している高校との随時交流と定期的生徒間交流
- 3) Skypeを活用した外国人講師とのオンライン英会話の活用
- 4) マレーシア公開大学での語学・異文化研修プログラム

(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等 特になし

(3) グローバル・リーダー育成に関する環境整備、教育課程課外の取組内容・実施方法

- 1) 2019年度の「言語科」の設置に向けた、言語科設置検討委員会の開設
- 2) 言語技術の授業導入に伴う、クリティカル・ライティング・センターの拡充
- 3) 探求型学習のためのルーブリック評価基準の開発とアクティブラーニング評価法の改革
- 4) 言語技術理解を深めるための、全教員対象の言語技術研修の実施
- 5) 全教員を対象とした英語力向上のための研修他、タイムマネジメント指導法開発も行う

⑧-3
上記以外

⑨その他
・特記事項

提携大学の創価大学はグローバル牽引型SGUであり、本校と有機的な研究開発ができる。本校は、2015年度よりSGHアソシエイト校の認定を受け研究開発を行っており、2月には年間報告会を実施した。